

会議記録

会議名 令和3年度第2回菊川市環境審議会
と き R4. 3. 2 (水) 10:00~11:15
場 所 菊川市役所東館1階多目的ホール (町部地区センター内)
出席者 委員13名 (欠席:坂田、大橋)、事務局4名

議事:

(1) 菊川市一般廃棄物 (ごみ) の現状と減量施策 (報告)

事務局:【資料1の説明】

- ・環境資源ギャラリー搬入家庭系ごみ
年間0.6%の増。1人1日当たり1.2%の増。
- ・事業系ごみ排出量
約10%の減。新型コロナウイルスにより企業が休みになった影響と考える
- ・資源化率
1%の減。
- ・ごみの総排出量
年間2.4%の減。1人1日当たり1.6%の減。
- ・県内市町のごみ量 (平成31年度実績)
ごみの少なさが県内2位。
- ・自治会別家庭系ごみ量調査結果
1袋当たり平均3.09kg。
一人当たりの最も多い自治会と少ない自治会との差は4.28倍。
- ・令和3年度ごみ量の減量施策
分別収集奨励金の実施。
食品ロス対策 (スーパーやコンビニへポップを配布)。
食品ロス対策・リサイクルの動画配信 (3/7~3/11 予定 岳洋中の給食時間)。
プロギング (ジョギングをしながらゴミ拾い) (3/7 予定 加茂小)。
食用油の回収 (3月中に予定)

質問1:

静岡県内市町のごみ量は、1番掛川市、2番菊川市となっているが、その差は、何が違うのか。

回答1:

集計の取り方の差と考えています。菊川市ではPTAや自治会などで行っている古紙回収の助成金を実施していますが、掛川市ではありません。古紙の数量が把握できるため、ごみの総量に入っているかいないかで差が出てきます。また、食料油の回収は掛川市では実施していますが、菊川市では実施していません。そのような政策的な差と考えております。

質問 2 :

ごみの量が多い自治会と少ない自治会の差は。

回答 2 :

はっきりとしたことは言えませんが、個人商店さんなどが自治会のゴミステーションに出しているのでは、と考えております。個人事業主さんが多い地区はごみが多い傾向にあります。

質問 3 :

ごみの組成調査について、わかる範囲で教えていただきたい。

回答 3 :

菊川市では平成 29・30 年度に組成調査を実施しました。また、環境資源ギャラリーでは、毎年、定められた組成調査を実施しています。市としても、菊川市で発生しているごみの組成分析をして、どのごみの減量に力を入れていかなければならないかの議論は進めていく必要があると考えております。

質問 4 :

落ち葉や枝は、自然に戻した方が良くと思いますが、基本的には、家庭ごみとして袋に入れて出すものなのでしょうか？

回答 4 :

落ち葉など自然に帰るものは、対応してもらえれば一番だと思います。内田地区にある業者に選定枝などを持って行って頂ければリサイクルができますので周知をしていきたいと考えております。

質問 5 :

掛川市で補正を取って、新しい廃棄物処理施設建設の調査をという新聞記事を見たが、環境資源ギャラリーの現状を教えてほしい。

回答 5 :

環境資源ギャラリーでは、昨年度炉の故障があり、非常事態宣言を発令。今年度もリサイクルプラザで火災があり、現在使用していないため、不燃ごみ及び粗大ごみについては外部に搬出している状況です。

施設の今後については、昨年度組合で策定した基本構想では稼働から 20 年となる令和 6 年度で炉を停止する。現在炉の運転等で委託年間 13 億かかっており、今後老朽化によりさらに金額が上がっていく。さらに令和 6 年度以降施設をしようとする場合、基幹改良工事で 160 億円かかる。

そういった状況から新しい炉の検討を進めている。基本構想では公民連携と DBO の 2 案となっているが、公民連携では民間に建物建設から委託することで初期投資や将来的な負担を軽減できる。その場合産業廃棄物の受入れも行うことになる。計画が地元にもうまく伝わっていなかったこともあり、地元では産業廃棄物の受入れ等で不安の声が上がってい

る。先ほど話のありました補正予算ですが、基本構想のまま進んでも大丈夫なのかといった検証をする検討委員会を設置します。菊川市でも補正予算 290 万ほどの負担金を計上し掛川市に支払う。また進捗状況を市民の皆様にお知らせしていく。

(2) 第3次菊川市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）令和2年度実績（報告）

事務局：【資料2の説明】

- ・公共施設から排出される二酸化炭素排出量の削減目標を定めている。
- ・長期目標として2030年度までに40%削減、中間目標として2022年度までに5%削減。
- ・令和2年度の二酸化炭素排出量の削減目標は達成している。
- ・二酸化炭素の排出原因は、電気、A重油、LPG、揮発油、灯油、軽油をしようしたことによるもの。
- ・全二酸化炭素排出量の73%は電気の使用によるもの。
- ・電気使用量×係数＝二酸化炭素排出量となる。
- ・係数は、購入した電量会社などによる異なってくる。
- ・令和元年度より電気使用量が65千kwh増加しているが、二酸化炭素排出量が減少している理由は、係数が低くなったため。
- ・電気を多く使用している公共施設は、動力を稼働している施設が多い。
- ・省エネルギー推進本部を設置して、職員全員による電気使用量の削減を実施している。
- ・エコアクション21を公共施設に導入し、継続的な環境負荷軽減に対する取組を実施している。

質問1：

電気の係数のことで教えてください。電力会社を変えると係数は低くなるのですか

（会長：係数のことは中部電力様が詳しいので説明していただきたい）

回答1（中部電力ミライズ）：

電力会社には、電力メニューがいくつかあります。メニューによって係数が異なってきます。簡単に説明すると、火力発電、原子力発電、太陽光発電、水力発電などで電力を作りますが、火力発電は石炭を使用して電力を作っているため係数は発生します。太陽光発電は、化石燃料を使用していないので、係数は0になります。

質問2：

二酸化炭素排出量削減の目標数値を設定したと思いますが、この時の電気の係数を使用しないと、計画と実績が比較できないのでは。エコアクション21の審査上では、計画時の係数を利用して計算をして比較するよう指導しているが。

回答2：

現在どのくらい二酸化炭素を排出しているかが重要であると考えております。国にも二酸化炭素排出量の報告を毎年1回行っているため、係数は、現在の使用している電力会社の

係数を使用して算定しています。これにより、係数の低い電力会社から電力を購入すれば二酸化炭素排出量が削減できるという意識にも繋がっています。

質問 3 :

電力会社はどのように決めているのか？

回答 3 :

入札を実施しています。これまでの金額重視の入札から、仕様書内に「係数は0. **以下」という条件を付けて、入札するように各公共施設所管課にお願いをし、環境にやさしい電力の購入を進めています。

質問 4 :

公共施設の屋根に太陽光パネルを乗せることはどのように考えているか。

回答 4 :

東館、六郷地区センターなど、最近建設した公共施設にはパネルを設置しているところで、今後、公共施設への太陽光パネルの設置が義務付けられるようなので、既存の施設への太陽光パネル設置を含め、進めていきたいと考えております。